無財の七施

こんにちは、斎藤友厳と申します。
本日は無財の七施についてお話をさせて頂きます。

布施という言葉の語源は、「雨の降る日に、布一枚を他者に施すこと」だと聞いたことがあります。一枚の布を敷いて、雨をしのぐことはできないかもしれませんが、他者への思いやりを伝え、思いやりを理解できる素晴らしい行為ではないでしょうか？

また、布施の布は広く一般にという意味もあるそうです。ですから、お寺さんに差し上げるだけが布施ではありません。

布施には「法施」「財施」「無畏施」があります。
法施は、仏様の教えを人に聞かせること
財施は、金銭や物質的なものを施すこと
無畏施は、人の不安や恐怖を取り除いて、安らぎの心を施すことです。

また、与えるべきお金や知識がない場合は、優しい言葉や笑顔によって、他人の怖れを取り除くような行いも布施に数えられ、これを「無財の七施」と呼んでいます。

和顔施（わがんせ)、なごやかな顔で接すること
眼施（がんせ)、優しいまなざしを投げかけること
言施（ごんせ)、やさしい言葉で話すこと
心施（しんせ)、思いやりの心で接すること
身施（しんせ)、自分の身体でできることをすること
床座施（しょうざせ)、人に席をゆずること
房舎施（ぼうしゃせ)、自分の家を人のために提供すること、です。

いろいろな布施がありますが、「無量寿経」という経典にある『和顔愛語（わげんあいご)』を紹介したいと思います。

『和顔愛語』とは、柔和な顔つきと愛語です。
柔和な顔つきは笑顔になるでしょう。赤ん坊は、いつもにこにこと笑顔でいて、周囲の人の心を和ませます。あの笑顔は布施の笑顔だと思います。まさしく無財の布施の実践です。

そして愛語も、もちろん布施の言葉です。

愛語について、道元は次のように言っています。口語訳にて紹介いたします。

『愛語とは、衆生に接したとき、慈愛の心でもって発せられる言葉です。だから、日常生活における「おはよう」「お元気ですか」といった挨拶も、それが慈愛の心をこめて発せられればすばらしい愛語です。そして私たちがこの愛語を心掛け、日常生活のなかでそれを実践していると、次第に愛語は上達します。

死ぬまで好んで愛語しなさい。そうすれば未来までその功徳は続きます。恨みを抱く敵を降伏させ、高い地位にある人と親密になれるのも、その愛語が基盤になります。

顔を合わせた人から愛語を聞けば、聞いた人の表情が喜びにあふれ、心が楽しくなります。愛語は愛心より起こり、その愛心は慈悲の心を種子としている。愛語には世界を一変させる力のあることを学ぶべきであって、ただ相手の能力を賞賛するだけのものではない』

少々長くなりましたが、良い言葉ですね。

ドイツの詩人、ゲーテは「不機嫌は伝染する」と言いましたが、その通りだと思います。欧米人のエグゼクティブは、出勤前に鏡を見て、笑顔の練習をするそうです。冷笑でもせせら笑いでもなく、周りを明るくする笑顔です。

日本人は、たいていの場合、ふだんの顔つきでいますが、欧米人にすると不機嫌に見えるようです。欧米人やインド人、中国人、アラブの人々も、ふだんはぶすっとしていますが、知人に出会ったとたん、にこにこ笑顔になります。

彼らは周りを明るくする笑顔の布施をしているのですね。我々日本人も見習わなければならないと思います。